

高知県南海地震条例づくりシンポジウム

資料4

～あなたの命を守るため、今、何ができるか～

プログラム

- 13:30 開会(10分)
13:40 基調講演(50分)
14:30 休憩(10分)
14:40 パネルディスカッション
- ・コーディネーター・パネリスト紹介(司会) 5分
 - ・ディスカッションについて(林教授) 5分
 - ・南海地震条例づくり検討会(青木副会長) 10分
 - ・ワークショップからの課題(高知NPO) 10分
 - ・2題 各35分
 - ・まとめ(林教授・青木副会長) 10分
- 16:30 閉会

ご講演

「次の南海地震から生き残り、生き抜くために」

講師：林春男 教授

京都大学防災研究所巨大災害研究センター 長・教授

講演内容について：県外の震災の教訓等から多角的な御意見をいただき、南海地震条例のイメージや期待感を持っていただく。

狙い

来る南海地震に備えるため

- ・過去の震災における被害や被災生活などを知る
- ・地震から命や生活を守る知恵や手段を知る。
- ・「自助」「共助」「公助」の役割を考える

当日は、シンポジウム資料(講演パワーポイント等)とアンケートを配布する。

パネルディスカッション「あなたの命を守るため、今、何ができるか」

コーディネーター 林春男 教授

パネリスト 高知県南海地震条例づくり検討委員から6名

ゲストパネリスト 高知NPO坂本導彦専務理事

基調講演：「次の南海地震から生き残り、生き抜くために」

県外の震災の教訓等から多角的な御意見をいただき、南海地震条例のイメージや期待感を持っていただく。

パネルディスカッション

- ・南海地震条例づくり検討会について
- ・県民ワークショップ報告から課題提起

・ディスカッション

「 5 あなたの命を守るため、今、何ができるか 」

テ - マ 1 : これでもいいのか避難路・避難場所

(避難場所が分からない、地域に津波から逃げる場所がない又は遠い、
避難場所の安全性が心配、高台への避難路がない、避難路が危ない)

テ - マ 2 : そのとき私たちは助けあえるのか

(近所づきあいの薄まり、過疎、高齢化によるコミュニティの崩壊、
自主防災組織の組織率の低さ、災害時要援護者の避難や避難生活を
どう守るか)

各検討会委員は、検討会での検討事項を織り交ぜながらトーク

配置

基調講演

スクリーン

要約用

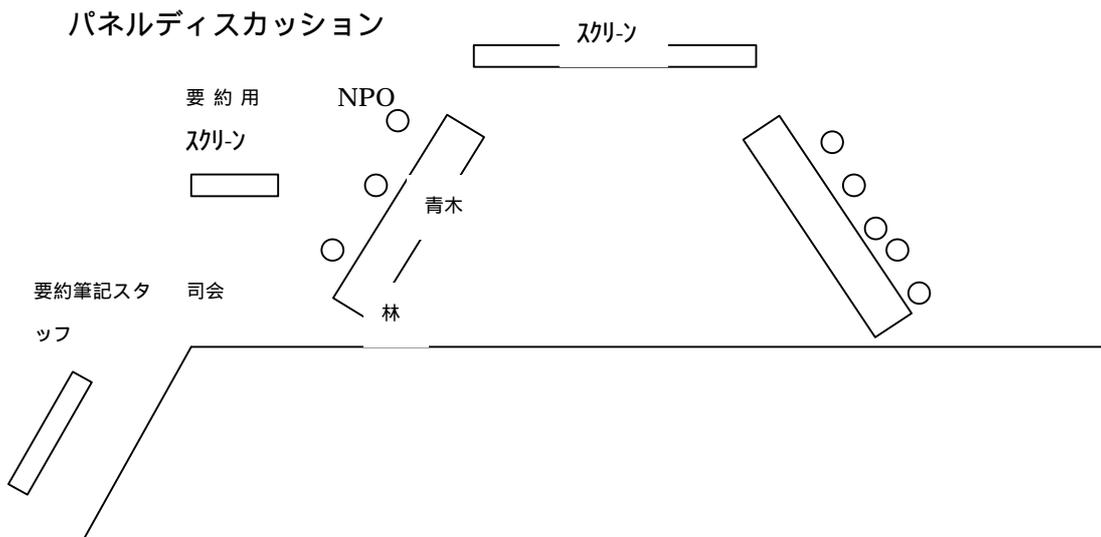
スクリーン

講演台

要約筆記スタッフ

司会

スタッフ



パネリスト

パネリスト	主な期待する役割
青木副会長	検討会の代表者(会長代理)として、検討会での検討状況を報告する。また、法学研究者の立場から、各パネリストの意見を踏まえて、条例化にあたっての課題、問題点を整理する。
上田副会長	自主防災組織のリーダーの立場から、地域での防災活動の現状や課題なども踏まえながら、地域防災力を高めるために必要な仕組みなどについて発言する。
武市委員	要援護者を支援する立場から、要援護者を取り巻く環境なども踏まえながら、地震発生後に予想される避難面・生活面の不安や、命を守るために必要な仕組みなどについて発言する。
土居委員	災害医療現場での活動経験や、日本赤十字社の防災ボランティアリーダー等の育成者の立場から、被災地の現状なども踏まえながら、防災意識の高揚と備えの重要性などについて発言する。
藤原委員	防災イベントを通じて、住民交流を深めてきた立場から、イベントの取り組みなども踏まえながら、まちづくりと一体となった地域防災活動のあり方などについて発言する。
多賀谷委員	防災工学の専門家の立場から、工学的な知見も踏まえながら、本県における地震防災対策(自助、共助、公助)の現状と課題、今後のあり方などについて発言する。

+

高知NPO 坂本専務理事	県民ワークショップの開催状況について報告するとともに、パネルディスカッションでは、具体的な県民の不安や意見などを報告する。
--------------	---

